やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	14 / 1999 / 42-44
タイトル	せせらぎウオッチング始末記
著　者　名	坂本瀧夫

自然を見つめる やぶなべ会（青森）

『せせらぎウォッチング』始末記

初代　坂 本 瀧 夫

５月２７日（水）
今までの最標高地　鰺ヶ沢町大鳴沢

スキー場拡幅工事に伴う環境影響調査の一部を担当できないかとの打診があったのを機会に、事前調査という名目で、鳴沢川の源流部を見せてもらうことにした。かなり深い沢目で、簡単に行けるところではない。林道をジープで 10 分ほど走って現地に着いた。時々熊も出るという。

カズメウズムシを初めて採取
キタカズメかキタシロカズメかは同定できなかった。
カゲロウ類やトビケラ類も形が小さく同定が難しい。
ユスリカ類も多かった。
イワナを１匹釣り上げて食餌状況を調べたが、30 種近いもののうち 10 種あまりが落下昆虫で残りがカワゲラと、トビケラ類であった。

６月３日（水）
鰺ヶ沢大鳴沢の下流

さきの採集地点から下流に約５㎞の『ながだい荘』横を調査。まだまだ源流に近いが、水生昆虫は多くなっている。

６月８日（月）
『ホタルの里づくり』思い入れの強い大久保川

八戸市の白銀南公民館ではカワニナを飼育してゲンジボタルを増やし、ホタルの里づくりを目指しているが、カワニナがヒルに食われているという連絡を受け、調査に走った。

貝類の体液を吸うものはグロシフォニ科の種に多いという。
池の上流部分湧水場所から池への流入部までは、きれいな流れであるが池から遡上している動物も多くみられた。
池の下流部は、相当富栄養化が進み、ミズムシ、ヒル、モノアラガイ、ヒラマキガイなどが多く生息し、ヘイケボタルの生息環境だった。

６月１３日（土）
カゲロウ類の多かった内真部川

青森市中央公民館の子ども生物探検隊が今年も昨年と同じ場所で学習した。カゲロウ類では、ヒラタカゲロウ類が形も小さく数も少なかったが、マダラカゲロウは大きさも形もよかった。
トビケラ類では、ウルマーとニンギョウはいい形であったが他は可携巣もはっきりしないものがあった。ガガンボは大型のものが多かった。

６月２５日（木）
“よこはまホタル村”恒例の水質調査

降雨の後のため、例年より採集種が少なく、カワニナ、ホタルとも見られなかった。

６月２１日（日）
野辺地町が毎年行っている
『こどもエコクラブ』の活動

町内のボーイスカウト、わんぱく探偵団、キャンディキッズが協力しあって活動する「こどもエコクラブ」結成の後、例年この季節に行っているせせらぎウォッチングを野辺地川と琵琶野川に分かれて実施した。

１．ゲンジボタルとカワニナが対で採取野辺地川

カゲロウではまだら類が比較的いい形であった。

２．ムカシトンボが定着している琵琶野川

環境はいいが、調査地点は狭く、20 人が限度のようだ。

青森の入内川を調査　　野沢小学校

７月３日（金）
１．本校と分校が合同で

今年度最多の３８種を採集、川幅に比して、人数が多かった。

８月８日（金）
２．分校だけで

カワトンボの幼虫がとれた。終了間際には、教室にルリボシヤンマが飛び込んできた。
継続実施校のひとつであり、仕事の手順を効率的にこなしている。

７月１６日（木）
ヒゲナガカワトビケラの羽化もみられた奥入瀬川

奥入瀬小学校は２年目。高温が続いたためか、羽化が進んでいる。カワゲラ類が少なかった。

７月１７日（金）
種も数も多かったが小型で同定が困難だった
奥　入　瀬　川

下切田小学校は５年継続している。昨年は水量が多すぎて採集できなかった。今年は、種類も数も多かったが小型で同定が困難だった。

７月２５日（土）
初めての“子と親のせせらぎウォッチング”

青森市中央市民センターが行った親子の行事は募集期間が短く、参加者は少なかったが活動は効果的に進められた。採集にはいい場所であったが、植樹祭の環境整備で伐採され、樹間が開けすぎた。

７月２６日（日）

人であふれかえる河川公園

階上町の太陽こども会から依頼があって、しばらくぶりで松舘川へ出かけた。日差しがきついせいか、人であふれかえっている。岩盤に土砂が流入し、ゴミも多い。モノアラガイやミズムシのいる川で泳いでいるが、衛生の面で問題が起こらなければいいが。早急に対策を考えるべきだ。

８月９日（日）
１泊２日　県のウォッチング

県の環境政策課では、毎年環境探検隊という団体を組織し、県内のいろんな施設見学や体験をする行事を実施しているらしい。今年は相馬川のせせらぎを体験させることになったが、事前調査もなく調査地点の選定もいい加減で、採集したのはヒルとウズムシだけが目立つ。
屋外の自転車小屋で２時間の分類、同定はつらかった。

８月３１日（月）
トンボ研修会になってしまった　熊の沢

柏小学校は今年はついていない。雨天続きのため延期したが、今度もまた水量が多くて採集できなかった。

調査地点付近の水田から止水域の生物を採集して教材としたが、間が持てず、持参したトンボの標本で急ごしらえのトンボ談義。　効果は後でなければわからないがトンボの分布調査のため子どもが示す興味に期待したい。

９月５日（土）
白神の水は pH8 ～ 9 だった　笹内川

早朝６時出発、片道所要時間４時間はきついが、岩崎小学校の子どもが待っている。

河原はどこでも採集できるよい環境で、のびのびと仕事ができた。子どもたちは素直ではきはきして気持ちがよかった。ここも豪雨の後で、生物の種は思ったより少なかった。

指導者養成事業に
やっと灯りがともる

今年度の主要事業のひとつに指導者の養成と、会員の獲得がある。活動時期も過ぎようとしているのにどちらも目立った成果が見られない。

諦めかけていたところに青森県総合学校教育指導センターからうれしい話が舞い込んだ。

県立学校教職経験 10 年研修の講座の一部に環境保全体験学習として川の環境調査学習も加えたいので協力してほしいとのことである。どのような結果になるのか想像もつかないが、今回の研修の結果がこれからの事業に大きな影響を及ぼすことになりそうである。だが、１時間半でどんなことができるだろうか。

ま　と　め

今年の特徴は、実体顕微鏡をフルに使っての活動ができたことである。

子どもも親も顕微鏡から離れないうちに、時間がどんどん経過してしまい、時間内にまとめるのに苦労した。終令に近い幼虫だけであれば、肉眼でも観察できるのだが、１㎜前後の若令幼虫では、目のいい子どもでも特徴を探し出すのに苦労する。

今年は天候不順で、春先は夏がもうきたかというほどの暖かい日が続いたが、一転して涼しくなり、夏休みが終わってまた暑くなり、おまけに台風が続けて来襲し、日本全土に洪水をもたらした。自然を相手に仕事をするとき焦りは禁物。なるようになれであるが、こよみとにらめっこの仕事をしている人にとっては、胃の痛む年であった。

正 誤 表

技術的な打ち合わせの不十分さ（版下問題－ A4 版版下→ B5 版製本）などとページ数を 50 ページ内に抑えるため、最終段階で多少無理をして詰め込んだので出来上がりのレイアウトが非常に見苦しくなりました。

また、校正には時間を掛けたつもりでしたが、未校正フアイルが印刷屋に回ったり、スキャナの認識ミスを見落としたりで以下の誤りがありました。
次号以降は同じ誤りが起こらないように心がけます。（やぶなべ委員会）

頁・行	誤 り	正
4, 上 15	鯨海実験所	臨海実験所
下 3	発達しくる	発達してくる
6, 上 9	（頭胸部）との間	（頭胸部）との間
7, 下 4	繁殖行動」	」をトル
8, 下 14	演じさせるはうが	演じさせるほうが
11, 上 5	交尾はが	交尾が
11, 下 20	日本に移入されたザリガニ	行を換えて行頭へ
19, 下 1	つづく P45	つづく P46
20, 上 6	やぶなへ	やぶなべ
上 8	高速化　効率化	高速化、効率化
下 14	少年育って	少年に育って
21, 上 19	勉強などあませず	勉強などあまりせず
同	行くといた	行くといった
下 16	煤川沿え	根子堰沿い
下 11	錯葉標本	さく葉標本
下 9	風呂のばいバイ菌	風呂のバイ菌
22, 上 14	込んだで	込んで
23, 上 20	孵化	羽化
25, 上 4	猫いた	猫がいた
27, 上 10	猫堰	根子堰
31, 市田	アキアカネかは	アキアカネは
32, 上 9	入を	人を
上 12	オフサケ	オフザケ
33, 上 4	活勒	活動
34, 上 11	会見	会員
35, 下 8	a t	etc.
36, 上 14	浪打ち	浪打
37, 上 7	驚きでった。	驚きであった。
下 16	付いていりた。	付いていった。
38, 上 8	もらいないのか・・・	もらえないのか・・・
下 17	公務員年活	公務員生活
41, 下 13	いただくことこなった・・・	いただくことになった
42, 中	青森県陸水生物研究会　坂本	初代　坂本瀧夫
43,右段 1	調査地点は狭	調査地点は狭く、
44, 上 4	あるれかえっている。	あふれかえっている。
46, 上 14	グループお願い	グループにお願い
47, 2.	原稿の厚め片	原稿の集め方